

1. 16年3月期決算の概況

三井住友フィナンシャルグループの収益の中核となる三井住友銀行の16年3月期決算は、(図表1-1)収益動向及び計画に示した通りであります。

[業務粗利益]

業務粗利益は、14年度高水準であった市場営業部門収益の減益をマーケティング部門における収益増強によりカバーしたものの、1兆5,841億円と計画(1兆6,000億円)を若干下回る結果となりました。

[経費]

経費につきましては、人員の削減を引き続き進めたほか、賞与ファンドの削減、支店における事務処理のHUB & スポーク体制への移行等諸施策の実施等により、5,840億円と計画(6,000億円)を160億円上回る削減を実現いたしました。

[業務純益]

以上の結果、一般貸倒引当金繰入前の業務純益は1兆1億円と計画(1兆円)を上回る実績となりました。

[臨時損益その他]

臨時損益に計上される不良債権処理損失額につきましては、8,692億円となりました。なお、個別、一般及び特定海外債権引当金を合計した貸倒引当金がネットで戻し入れとなったこと、債権売却損失引当金も戻し入れとなったことから、この戻入益658億円を特別利益に計上しております。したがって、不良債権処理損失額と貸倒引当金等の戻入益の合計となる与信関係費用は、8,034億円となりました。

また、株式等関係損益につきましては、堅調な株式相場環境の下、売却による保有株式の圧縮を実施したことにより、1,039億円の利益となりました。

[経常利益]

以上の結果、経常利益は1,851億円となりました。

[特別損益]

貸倒引当金戻入益及び債権売却損失引当金戻入益として658億円を計上したことに

加え、東京都銀行税の還付税金及び還付加算金を 404 億円受領したことや、厚生年金基金の代行部分返上益 591 億円を計上したことから、特別損益は 1,337 億円の利益となりました。

[当期利益]

以上の結果、当期利益は 3,011 億円と計画(1,000 億円)を大幅に上回る実績となりました。

[連結決算]

三井住友フィナンシャルグループの 16 年 3 月期連結決算は、(図表 1-2)収益動向に示した通り、連結経常利益は 3,428 億円、同当期純利益は 3,304 億円と前年度比 7,958 億円の大幅増益となりました。

また、16 年 3 月末の連結自己資本比率は、11.37%と計画(10.22%)を上回りました(図表 2)。

[剰余金の推移]

以上の結果、16 年 3 月期における三井住友フィナンシャルグループ及びその 100%出資子会社合算の剰余金につきましては、1 兆 7,964 億円と計画(1 兆 5,906 億円)を大幅に上回る実績となりました。

< 剰余金の積み上がり状況 >

(億円)

	15/3 月期 実績	15/9 月期 実績	16/3 月期 計画	16/3 月期 実績
期末合算剰余金(注)	10,130	16,174	15,906	17,964
その他資本剰余金	4,139	8,985	8,985	8,985

(注)三井住友フィナンシャルグループ、三井住友銀行、三井住友カード、三井住友銀リース、日本総合研究所の剰余金合計

[17 年 3 月期決算見込み]

17 年 3 月期に関し、三井住友銀行におきましては業務純益(一般貸倒引当金繰入前)9,800 億円、当期利益 2,800 億円を見込んでおります。また、三井住友フィナンシャルグループ(連結)といたしましては、連結経常利益 6,500 億円、同当期純利益 3,300 億円を見込んでおります。